

海自水中処分母船を学生等に公開 乗員と一対一で会話も



自衛隊静岡地方協力本部藤枝地域事務所（所長・宝保竜平1等陸尉）は10月21日（土）と22日（日）、焼津港（焼津市）に入港した海上自衛隊水中処分母船3号の特別公開を支援した。

今回は主に自衛隊に興味のある学生やその家族を対象としており、事前予約をした22人を含む114人が参加した。

2日間とも晴天に恵まれ、参加者は同船の船長や乗員からユーモア溢れる説明を聞きながら、船の舵を取る艦橋や、甲板に設置された揚収用クレーン、ダイバーである水中処分員が身に付ける用具などを見学した。

普段は見ることができない船内の様子に参加者は興味津々で、「最高速度はどのくらいですか」「横須賀からどのくらいかかりましたか」と乗員に質問を投げかけていた。

また、同船にはさまざまな経歴や職種の隊員が乗っており、「潜水艦に乗っていました」「らっぱ吹奏が得意です」「海外で仕事をやる機会もあるので、グローバルに働けます」と、参加者と一対一で自らの経験や海上自衛隊としての働く魅力を伝えた。

一方、岸壁では本物の南極の氷に触れることができるコーナーが参加者や通行人の関心を集め、藤枝所は自衛隊採用制度説明コーナーで学生や家族に自衛隊や自衛官の採用コースなどについて説明を行った。「海上自衛隊の幹部になりたい」といった具体的な夢を持って参加する学生もおり、真剣な眼差しで自衛官から話を聞いていた。

藤枝所は、地域住民に自衛隊の活動や自衛官の仕事への理解を深めてもらうため、引き続き地域との交流を大切に広報活動に励んでいく。

東方音楽隊が中高生に一期一会の演奏指導



自衛隊静岡地方協力本部藤枝地域事務所（所長・宝保竜平1等陸尉）は11月4日（土）、島田市民総合施設プラザおおるりで開催された「陸上自衛隊東部方面音楽隊による中高生のための吹奏楽クリニック」を支援した。

これは、中学・高校生と自衛隊の音楽隊が音楽を通じて交流することで、青少年の音楽文化の高揚とキャリア教育の一助とすることを目的として開催されたもの。市内在住・在学の中高校生82人が参加した。

事前に指導曲「アフリカン・シンフォニー」の楽譜を受け取り、個人練習を重ねてきた参加者たち。楽器ごとのパート練習では、第一線で活躍する隊員から楽器を吹く際の口や肺の動きなど体の構造から教わり、参加者たちは基本を大切にしながら指導内容に真剣に耳を傾けていた。

また、息の吸い方やスピード、抑揚の付け方、指の置き方といった細部にまで気を配ることと、音色により一層感情が加わり、音が遠くまで響くようになることを実感していた。

一方、参加者からも「普段どのように練習をしているんですか」「本番はどのような気持ちで演奏していますか」といった積極的な質問があり、隊員の技術を吸収しようと努力していた。

最後は、翌日に音楽隊の演奏会が開かれる演奏ホールに移動し、ステージや客席を使用して参加者と隊員が合同で演奏し、一期一会の演奏指導を締めくくった。

藤枝所は、今後も広報活動を実施し若者に自衛隊の音楽隊を知ってもらい、やりがいのある職業ということを伝えていく。

タミヤフェアで自衛隊車両を展示 ミニ10式戦車も初登場



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・武田恭一1等空佐）は11月18日（土）と19日（日）、ツインメッセ静岡（静岡市）において開催されたタミヤフェア2023で広報活動を行った。

陸上自衛隊第34普通科連隊（御殿場市）の軽装甲機動車と高機動車が目を引く自衛隊ブースでは、静岡地本が航空機や艦艇の模型、触れるF-4戦闘機の操縦桿、自衛官が制服に着ける記念章・き章の展示、子供用迷彩服の試着体験などを行った。

会場には模型ファンや家族連れなどが多く訪れ、珍しい自衛隊車両に触れたり、隊員から説明を聞いたりして自衛隊への理解を深めていた。

今回、静岡募集案内所長の伊藤通孝2等陸尉が作製した「ミニ10式戦車」が初登場し、人気を集めた。これは、機甲教導連隊が作製したミニ16式機動戦闘車を参考に、所長が個人で作製したもの。車体にメッシュ状のトリカルネットを使用した軽量仕様で、砲塔から上半身を出す形で着用できる。

作製した伊藤2尉は「まだ6割くらいしかできていない」というものの、10式戦車特有のフォルムやキャタピラ、後部に付いているかごやけん引ワイヤーなど、こだわりを感じるつくり「再現度がすごい」「どうやって作ったんですか」と模型好きの来場者は興味津々だった。

静岡地本は、今後も地域のイベントに参加し、自衛隊に興味を持ってもらえるようさまざまな広報活動を実施していく。